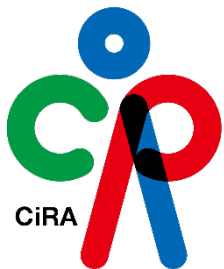


『いのちの未来』(研究室紀要)について

2017年3月24日 於: 京都大学

澤井 努



京都大学 iPS細胞研究所
上廣倫理研究部門

自己紹介

- 専攻：生命倫理学・哲学・宗教学

最近の研究【2017年】

✓ 理論研究

単著：『ヒトiPS細胞研究と倫理』
(京都大学学術出版会、近刊)

✓ 実証研究

共著：“Public attitudes in Japan towards human-animal chimeric embryo research using human induced pluripotent stem cells”
(*Regenerative Medicine*, 2017)

書誌情報

The Future of Life

No. 1 (2016)

◆ 発行人

カール・ベッカー教授

◆ 発行所

人間・環境学研究科 共生人間学専攻
カール・ベッカー研究室

◆ 発行日

2016年1月15日

Translation

Julian Savulescu (translated by Tsutomu Sawai)

Procreative Beneficence: Why We Should Select the Best Children..... 100

事例報告

紀要をなぜ、どのように創刊したのか？

どのような点で苦労したのか？



“なぜ” 創刊したか？

- 院生が業績を積む場
 - － 各院生の研究関心が多岐にわたる
⇔ ディシプリンが定まらない
- 院生が研究の作法を学ぶ場
 - － (同じジレンマを抱えながらキャリアアップした)
OB・OGとの学術交流から学ぶ
→ 「やるからには質の高いものを！」

“どのように” 創刊したか？

時期	出来事	備考
• 2013年7月	• 始動	• 体制の整備 • 2013年末に投稿〆切
• 2014～2015年	• 査読	• 複数回の査読 → 予想以上に難航
• 2016年1月	• 創刊号刊行	• 編集作業、諸手続き
• 2017年2月	• 第2号刊行	• <u>退職記念号</u> として企画 • 2016年末に投稿〆切 • 編集作業、諸手続き

コンテンツと掲載状況

投稿区分	創刊号	第2号
原著論文	2本	0
研究ノート	2本	0
依頼論文	5本 英語3本;日本語2本	8本 英語2本;日本語6本
翻訳論文	1本	0

【掲載論文の分野】

哲学(教育哲学)、倫理学(生命倫理学・環境倫理学)、社会学(医療社会学)、死生学、看護学、etc.

たまたにアクセス数を確認

[Kyoto University Research Information Repository >](#)

アクセス統計詳細

アクセス統計詳細

統計対象：論文ファイル 表示年：2016

1

タイトル	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	合計
編集後記	10	13	3	3	5	3	5	3	3	4	2	3	57
Worlding Shiatsu Therapy: Circumventing the East-West Dichotomy in a Comparative Ethnographic Project	2	18	2	3	5	2	3	5	4	3	3	2	52
Learning Compassion: Everyday Ethics among Japanese Carers	3	36	15	10	16	15	11	10	7	20	9	14	166
Heart Care in Japan: Before and After the 1995 Great Hanshin-Awaji Earthquake	4	13	20	28	46	40	241	88	6	14	13	12	525
<依頼論文>道徳的想像力論が投げかけるもの --応用倫理からメタ倫理学まで	1	33	11	12	15	16	17	12	5	13	39	90	264
<依頼論文>集中内観は生きがい感の向上に有効か? --SOC 健康尺度を用いた検証	4	35	19	34	48	28	31	12	12	43	18	18	302
<翻訳論文>生殖の善行 --私たちが最善の子どもを選ぶべき理由	17	20	1	17	35	18	16	14	10	9	11	11	179
<研究ノート>欧米社会における「ホスピスの医療化」研究の動向と展望	8	20	13	12	11	11	15	12	10	14	11	15	152
<研究ノート>教育入院の経験の語り --T病院に教育入院中のアトピー性皮膚炎患者へのインタビューから	5	21	15	20	19	15	6	7	10	14	11	12	155
<原著論文>新優生学の「自由」について --デザイナー・ベビー議論における「開かれた未来への権利」の検討	8	27	8	9	38	32	66	41	22	44	95	65	455
<原著論文>ヒトiPS細胞研究の道徳的共犯論 --日本のヒトiPS 細胞研究への含意の検討	19	34	7	4	24	13	23	14	9	3	13	7	170
<創刊にあたって>カール・ベッカー研究室紀要『いのちの未来』創刊の意	5	10	4	3	6	1	4	1	4	3	1	4	46
<創刊にあたって>創刊の辞	7	12	2	2	9	2	10	5	5	3	2	4	63
<創刊にあたって>『いのちの未来』創刊に際しまして	11	16	6	3	10	4	8	4	4	16	3	6	91
表紙、目次	19	16	4	1	2	1	5	2	2	4	1	4	61

「アクセス統計」画面に戻る



具体的な作業(=苦勞した点)

- 紀要創刊の構想と体制の整備
 - － 編集委員会の立ち上げ、指導教員・顧問との相談、投稿規定等の作成、査読の依頼と委嘱手続き
- 投稿募集
 - － 研究室MLで募集、個別にも依頼
- 図書館の担当者の方とのやり取り
 - － リポジトリ登録、覚書の締結、刊行後のデータ送付
- 投稿者－査読者間のやり取り
 - － 査読者の選定・依頼、査読割れ時の調整
- 編集作業
 - － フォーマット・文献表・図表の統一、誤字脱字チェック

第3号刊行に向けて

- “研究室”紀要は第2号まで(退官により)
 - － 継続したいという声は多い
 - ✓ 今後、なぜ紀要を継続するのか？
- “研究会”紀要として再始動？
 - － 第1回研究会を開催し相談
 - ✓ 今後、なぜ紀要を継続するのか？
 - 誰が、何を目的に投稿する（誰に、何を訴える）
 - メディアとして紀要を位置づけるか？
 - ※ 紀要の名称変更 → リポジトリの登録等

今後、苦勞するであろう点

- “研究会”紀要として存続させるとして…
 - － 投稿希望者がいるかどうか
 - ✓ 投稿者確保のために、外部に開いたり、(研究会)会員の所属先の学生も対象にしたりする？
 - － 査読制を残すかどうか
 - ✓ 研究会ベースの場合、投稿希望者には発表してもらうなども一案。
 - － 編集作業を誰が担うのか
 - ✓ 外注できるのか？外注する場合、どの程度費用がかかるのか？費用はどのように負担するのか？

今後の発展のために

- 大学のサポート

- 大学のサポートがある(または、今後ある可能性はある)ことを知れて良かった
- 紀要を継続していく以上、その意義や位置づけを確認できることは良いこと

- 経験知の共有

- 何か分からないことがあれば相談し合える、横のつながりは大事